

日本文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本文学概論	王朝物語文学の世界	2	横溝 博	3	金	3	国文学概論
日本文学概論	日本近現代文芸の世界	2	仁平 政人	4	金	3	国文学概論
日本文学基礎講読	夏目漱石の小品を読む	2	仁平 政人	3	金	2	国文学基礎講読
日本文学基礎講読	『徒然草』を読む	2	佐倉 由泰	4	金	2	国文学基礎講読
日本文学各論	『竹取物語』の諸問題	2	久保 堅一	集中 (5)			国文学各論
日本文学各論	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	5	火	2	日本文芸形成論各論
日本文学各論	戦後文学の諸問題	2	仁平 政人	6	月	2	国文学各論
日本文学各論	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	6	火	2	日本文芸形成論各論
日本文学各論	井原西鶴の浮世草子を読む	2	平林 香織	集中 (5)			国文学各論
日本文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	5	月	4・5	国文学演習
日本文学演習	近現代文学における〈異界〉	2	仁平 政人	5	水	2	国文学演習
日本文学演習	源義経をめぐる物語の研究	2	佐倉 由泰	5	木	2	国文学演習
日本文学演習	近現代文学における〈異界〉	2	仁平 政人	6	水	2	国文学演習
日本文学演習	源義経をめぐる物語の研究	2	佐倉 由泰	6	木	2	国文学演習

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：横溝 博 (教授)

講義コード：LB35301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 国文学概論 】

1. 授業題目：

王朝物語文学の世界

2. Course Title (授業題目)：

World of Ōchō Monogatari: tales of the Heian and Kamakura periods

3. 授業の目的と概要：

日本の物語文学はいつ発生し、いつ終息したのか——。本講義では『源氏物語』に代表される王朝物語文学の成立と展開の様相を、物語文学を取り巻く様々な文芸ジャンルとの相関のもとに、種々の作品テキストを取り上げつつ探っていく。王朝物語の時代は平安から室町と長きにわたるが、とりわけ王朝物語という文芸ジャンルが物語作者の存在意義とも絡んで取り沙汰されるようになる院政期から鎌倉中期を中心に、散逸した物語の資料をも重要な手がかりとしながら、物語文学というコンテンツの消長を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

When did Japanese narrative literature emerge and when did it end? In this lecture, we will explore the development of the Ōchō Monogatari (tales from the Heian and Kamakura periods), such as the Tale of Genji, by examining various texts of the works, in relation to various literary genres surrounding narrative literature. The era of the dynasty tales extends from Heian to Muromachi. We also explore the fate of narrative literature, using lost stories as clues.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本の物語文学について、作品もしくはその断片、関連資料の分析を通して、その特質と史的展開に関する理解を深める。
- (2) 古典作品を読解・鑑賞するに際しての基本的な知識を習得することで、王朝物語の文化史的意義について把握できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下は本講義で扱うトピックスを列挙したものであり、実際の授業の順序もしくは進度とは異なる)

- 1 王朝物語史 (現存物語、散逸物語)
- 2 前期物語 (竹取物語、うつほ物語、落窪物語、住吉物語)
- 3 源氏物語 (補作を含む)
- 4 後期物語 (狭衣物語、夜の寝覚、浜松中納言物語)
- 5 院政期物語 (海人の刈藻、とりかへばや、有明の別れ)
- 6 歴史物語 (大鏡、栄花物語)
- 7 物語評論 (無名草子、今鏡)
- 8 物語歌合 (物語二百番歌合)
- 9 物語歌集 (風葉和歌集)
- 10 中世王朝物語 (鎌倉時代)
- 11 中世王朝物語 (南北朝時代)
- 12 中世王朝物語 (室町時代)
- 13 和歌と物語、歴史と物語、物語と絵画
- 14 物語の作者と読者 (六条斎院物語歌合)
- 15 王朝物語の終焉 (室町時代物語、お伽草子)

8. 成績評価方法：

学期末に提出するレポート [50%] と出席 [50%] をもって評価する。なお、毎時間提出するミニツツペーパーの記載内容も、評価の対象とする。

9. 教科書および参考書：

基本的にはプリントを使って授業を進める。参考書は授業の中で随時紹介する。なお、一度配布した資料は繰り返し使用するので、毎時間用意すること。樋口芳麻呂編『王朝物語秀歌撰(上) 物語二百番歌合・風葉和歌集上』(岩波文庫、1987)、同『王朝物語秀歌撰(下) 風葉和歌集下・源氏物語歌合』(岩波文庫、1989) は本講義のバイブル。

10. 授業時間外学習：

作品を通読するのは困難としても、王朝物語史に関しては様々な学術書が存在するので、授業で紹介したものも含めて、可能な限り手に取り、概要の把握に努めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

本講義は第 4 セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：仁平 政人 (准教授)

講義コード：LB45301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学概論】

1. 授業題目：

日本近現代文芸の世界

2. Course Title (授業題目)：

Study on Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：

明治時代から平成に至るまでの多様な小説を取り上げ、文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的に分析するとともに、テキスト分析の方法や、日本近現代文学の形成過程などについても概説を行う。

毎回の授業の終わりに、授業内容について考えたことや質問を提出してもらおう。次回の授業で、その回答や補足説明も行いながら授業を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this class, we take up a variety of novels from the Meiji period to the Heisei period, analyze them in concrete terms from a cultural and social perspective, and outline methods of text analysis and the formation process of modern and contemporary Japanese literature.

At the end of each class, students are asked to submit their thoughts and questions about the content of the class. In the next class, students will be given answers and supplementary explanations.

5. 学習の到達目標：

(1) 日本の近現代文学について、文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的な分析を行うことをとおして、その多様な特質に関する理解を深める。

(2) 作品分析の基本的な方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

(1) To deepen the understanding of the diverse characteristics of modern and contemporary Japanese literature through concrete analysis, taking into account the cultural and social context.

(2) To learn the basic methods of analyzing a work.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 概説：翻訳と日本近代文学の成立

3. 物語論の基礎

4. 樋口一葉「十三夜」

5. 田山花袋「少女病」

6. 志賀直哉「小僧の神様」

7. 芥川龍之介「雛」

8. 横光利一「蠅」

9. 江戸川乱歩「人間椅子」

10. 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」

11. 宮沢賢治「どんぐりと山猫」

12. 尾崎翠「途上にて」

13. 太宰治「魚服記」

14. 安岡章太郎「ガラスの靴」

15. 村上春樹「かえるくん、東京を救う」

(なお、質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。)

8. 成績評価方法：

最終レポート (50%)・授業への出席 50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品について、事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：仁平 政人 (准教授)

講義コード：LB35201, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学基礎講読】

1. 授業題目：

夏目漱石の小品を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read Natsume Soseki's Shōhin

3. 授業の目的と概要：

夏目漱石は、創作と随想を包含する「小品」という領域に属する作品を多く手がけている。この授業では「夢十夜」と「永日小品」の数編を取り上げて、多様な文脈を視野に入れた精読を試みる。

受講者は担当する作品について、(1) 基本情報の整理、(2) 注釈、(3) 先行研究の整理、(4) 1～3を踏まえた考察、の四点をレジュメにまとめて、報告を行う。報告と質疑応答を通して、作品に対する理解を深めるとともに、近代文学を研究する基本的な手続きと、分析の視点を身につけることが本講読の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Natsume Soseki produced many works in the field of "shōhin" which included creations and essays. In this class, we try to read "Yumejuya" and "Eijitsu Shōhin" carefully in various contexts. Students report by summarizing the following four points: (1) arrangement of basic information, (2) annotation, (3) arrangement of previous research, and (4) consideration based on 1 ~ 3. The purpose of this lecture is to deepen the understanding of the works through reports and questions and answers, and to acquire the basic procedures for studying modern literature and the perspective of analysis.

5. 学習の到達目標：

- (1) 本文の異同の確認や文献の収集、コンテクストに関する調査など、近代文学研究の基本的な手続きを実践的に学ぶ。
- (2) 近現代文学の特性について理解を深め、小説を分析する視点を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

(1) To learn practically the basic procedures of modern literature research, such as the identification of differences in texts, the collection of literature, and the investigation of contexts.

(2) To deepen the understanding of the characteristics of modern and contemporary literature and cultivate the perspective of analyzing novels.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 分析のレッスンー「夢十夜 第一夜」ー
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート (60%)、授業への積極的参加 (40%)

9. 教科書および参考書：

参考書は夏目漱石『文鳥・夢十夜』(新潮文庫)。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

なし

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB45201, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 国文学基礎講読 】

1. 授業題目：

『徒然草』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Study on “Essays in Idleness (徒然草 Tsureduregusa)”

3. 授業の目的と概要：

文学表現（古文）を読み解くには何に注意し、何に注目し、どのような手順で考察を進めればよいのかということ、『徒然草』の表現の調査、分析、報告、討議を重ねる中で理解して行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this seminar, you will understand what to learn and think about Japanese classical literature through practice of reading and interpreting “Essays in Idleness (徒然草 Tsureduregusa)”.

5. 学習の到達目標：

- (1) 変体仮名の文を読み解けるようになる。
- (2) 多様な辞書、事典が活用できるようになり、必要な文献も適切に探せるようになる。
- (3) 写本の文化を理解し、諸本間の本文の相違に注目して、精度の高い表現の読解ができるようになる。
- (4) 作品を発見的に解釈するためには、表現の細部の読解がいかにたいせつかということ考察の実践を通して理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに一文学表現を読み解くために一
2. 『徒然草』を読むにあたって
3. 変体仮名を読むために
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書：小川剛生訳注『徒然草』（角川ソフィア文庫）、かな研究会編『実用変体がな』（新典社）

参考書：授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

また、各回の講読、考察、意見交換の積み重ねの中で適切な段階を踏んで理解を深めて行く必要があり、そのためにも、必ず自分の予習をして毎回の授業に臨んでもらいたい。予習すべき内容については授業の中で説明するので、第1回の授業から出席し、その内容をよく理解すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：久保 堅一 (非常勤講師)

講義コード：LB98802, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学各論】

1. 授業題目：

『竹取物語』の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Study on “The Tale of Taketori (『竹取物語』 Taketori Monogatari)”

3. 授業の目的と概要：

まとまった物語としては現存最古とされる『竹取物語』は、「作り物語」というジャンルがいかんして誕生したのか、また、それはどのような発展を遂げてゆくのかといった問題系を考えるうえで、逸することのできない作品である。そのため近世から現代に至るまでに多くの重要な知見が積み重ねられているが、近年は研究がやや停滞傾向にあるといえる。研究の活性化のためには、改めて諸説の整理や見直しをおこない、見過ごされてきた表現、設定の調査や考察などが求められよう。本講義は、そうした立場から、従来の注釈を検討したり、細部の表現の背景を探ったりしながら、成立、構想、作者といったこれまでに論じ尽されてきた観のある『竹取物語』の諸問題を整理し、それらに関する研究の進展を目指すものである。あわせて、後続の文学作品における受容についても論じたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The Tale of Taketori (Taketori Monogatari), the oldest surviving story, is a very important work in terms of the genre of narrative. This lecture aims to revisit the various issues of Taketori Monogatari, such as its formation, concept, and author, and to advance research on those issues. At the same time, I would like to discuss how this tale affects later literary works.

5. 学習の到達目標：

- (1) 『竹取物語』の諸問題の現状や、現在の『竹取物語』研究の水準について理解する。
- (2) 『竹取物語』の成立や後世における受容等の考察をとおして、『竹取物語』の文学史的意義について理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。参考文献の紹介。
2. 『竹取物語』の概要
3. 成立・作者に関する諸説—口承説話との連続と断絶—
4. 物語文学の誕生とその背景
5. 『竹取物語』と神仙思想・神仙譚
6. 『竹取物語』と仏教(1)—仏伝(釈尊伝)と物語の枠—
7. 『竹取物語』と仏教(2)—戒律と難題求婚譚—
8. 『竹取物語』の注釈について—継承と更新—
9. 成立論・再考—材源から考える—
10. 作者論・再考—官人説と僧侶説—
11. 小括：『竹取物語』の諸問題と研究の展望
12. 後続作品における受容(1)—『源氏物語』—
13. 後続作品における受容(2)—『栄花物語』『夜の寝覚』など—
14. 現代における『竹取物語』受容
15. まとめ

(授業の進捗状況を見て、順序の変更があり得ます。)

8. 成績評価方法：

レポート(70%)、授業出席状況(30%)

9. 教科書および参考書：

教科書は室伏信助訳注『新版 竹取物語』(角川ソフィア文庫)とするが、手持ちのテキストがあるならばそれを使用してもかまわない。適宜、プリントを配布しながら講義してゆく。

10. 授業時間外学習：

『竹取物語』を通読してから臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB52202, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 日本文芸形成論各論】

1. 授業題目：

『平家物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”

3. 授業の目的と概要：

平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を考察する。『平家物語』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『平家物語』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this lecture, you will understand the characteristics of the description of “the Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”. And you will consider various significant problems of literature and culture through reading the original of this classical tale.

5. 学習の到達目標：

(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『平家物語』の特質と概要
2. 『平家物語』の成立と諸本
3. 序文のしくみと機能—巻第一「祇園精舎」より—
4. 都をめぐる観念—巻第一「殿上閣討」より—
5. 制度と祝祭—巻第一「禿髪」、「吾身栄花」より—
6. 芸能と仏道—巻第一「祇王」より—
7. 事実の置き換えが意味するもの—巻第一「殿下乗合」より—
8. 歴史叙述と祝祭性—鹿の谷事件をめぐる—
9. 登場人物の形象の変移—藤原成親に着目して—
10. 空間の多様な見え方—「きかいが島」に着目して—
11. 登場人物の対照性—平清盛と平重盛—
12. 戦いの表現が指向するもの—巻第四「橋合戦」より—
13. 都をめぐる観念—福原遷都をめぐる—
14. 「悪」の表現が意味するもの—平清盛の形象—
15. まとめ

8. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート [60%]・小レポート [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

本講義（『平家物語』の研究）は、第6 Semesterも連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：仁平 政人 (准教授)

講義コード：LB61201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 国文学各論 】

1. 授業題目：

戦後文学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Study on Postwar Japanese literature

3. 授業の目的と概要：

本講義では、第二次世界大戦後から一九六〇年代までの日本文学を対象とする。第 6 回までは、占領期 (1945～1957) における文学の多様な様相について、代表的な文学者のテキストの分析を交えて概説する。第 7 回以降は、占領期以後の文学場に登場し、ジャンル横断的に活躍した寺山修司の初期の活動を軸として、一九六〇年代までの文学に関わる複数の問題について、社会的・文化的なコンテキストや他のメディアとの関係も視野に入れて考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course covers Japanese literature from the post-World War II period to the 1960s. Until the 6th lecture, I will outline various aspects of literature during the occupation period (1945～1957), including an analysis of the texts of leading literary figures. After the 7th lecture, we will focus on the early activities of Shuji Terayama, who appeared in the literary arena after the occupation and was active across genres, and examine various issues related to literature until the 1960s, taking into account social and cultural contexts and the relationship with other media.

5. 学習の到達目標：

文学テキストを、社会的・文化的なコンテキストとの関わりを視野に入れて多面的に読み解く能力を養い、近現代文学の特性や意義について理解を深める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To cultivate the ability to read and understand literary texts in a multifaceted manner, taking into consideration their relationship with social and cultural contexts, and to deepen the understanding of the characteristics and significance of modern literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 「敗戦」をまたぎ越す—横光利一を視座に
3. 「焼け跡」をめぐる物語—石川淳など
4. 占領期の文学空間 (1)
5. 占領期の文学空間 (2)
6. 占領期の文学空間 (3)
7. 寺山修司の発期 (1)
8. 寺山修司の発期 (2)
9. 「詩劇」とラジオドラマの時代 (1)
10. 「詩劇」とラジオドラマの時代 (2)
11. 「政治の季節」のなかで (1)
12. 「政治の季節」のなかで (2)
13. 〈土俗〉という物語 (1)
14. 〈土俗〉という物語 (2)
15. まとめ

(なお、質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。)

8. 成績評価方法：

最終レポート (50%)・授業への出席 50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読み、考察を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB62201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 日本文芸形成論各論】

1. 授業題目：

『平家物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”

3. 授業の目的と概要：

平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を考察する。『平家物語』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『平家物語』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this lecture, you will understand the characteristics of the description of “the Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”. And you will consider various significant problems of concerning literature and culture through reading the original of this classical tale.

5. 学習の到達目標：

(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 登場人物の形象の変移—源義仲に着目して—
2. 登場人物の形象の変移—平家の人々に着目して—
3. 歴史叙述と祝祭性—法住寺合戦をめぐって—
4. 戦いの表現が指向するもの—巻第九「木曾の最期」より—
5. 表現の多様な可能性—巻第九「宇治川の先陣」より—
6. 戦いの表現が指向するもの—の谷合戦をめぐって—
7. 心の動きを語る物語—平維盛に着目して—
8. 心の動きを語る物語—平重衡に着目して—
9. 速さの表象とその意味—屋島合戦における源義経—
10. 場面を演出するしくみ—巻第十一「那須与一」より—
11. 事件を美化するしくみ—平知盛に着目して—
12. 事件を美化するしくみ—平宗盛に着目して—
13. 結尾部の記述が指向するもの—建礼門院徳子に着目して—
14. 表現の運動性がもたらすもの—源行家に着目して—
15. まとめ

8. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート [60%]・小レポート [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

本講義（『平家物語』の研究）は、第5 Semesterから連続して履修すること。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：平林 香織 (非常勤講師)

講義コード：LB98803, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学各論】

1. 授業題目：

井原西鶴の浮世草子を読む

2. Course Title (授業題目)：

Study on Ihara Saikaku's Ukiyo Zoushi (浮世草子)

3. 授業の目的と概要：

井原西鶴の短編小説を読む。様々な世態風俗の活写を味読し、西鶴が描こうとした〈人ごころ〉について考察を深める。また、日本古典文学の水脈や時代背景などが反映された作品の重層的な表現構造を分析することによって、さまざまな価値観を同時に表現する西鶴の方法や、俯瞰的な現実を表象する立体的なテキスト構造について理解する。なお、「西鶴を読む」方法として、音読や黙読のほか、さまざまなブレンストリーミングによる多角的な読みやグループ討議も行い、西鶴テキストのイメージ喚起力について体感的に学修する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this lecture, you will read Ihara Saikaku's short story. You will read the description of various social customs with real appreciation, and think deeper about his thoughts on the "hito-gokoro" that Saikaku tried to describe. In addition, by analyzing the multi-layered expression structure of works reflecting the historical background of classical literature, you will understand Ihara Saikaku's method of expressing various values at once, and the three-dimensional method of representing reality from a bird's-eye. In addition to reading aloud and silently, by conducting various brainstorming readings and group discussions, you will learn about the power to evoke the image of Ihara Saikaku text.

5. 学習の到達目標：

- (1) 西鶴の文学的特質を日本文学史の流れのなかに位置づけることができる。
- (2) 西鶴の小説テキストをていねいに読み込むことができる。
- (3) 作品の余白について思考を巡らすこと、作品の文学的魅力を説明することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに 講義の概要と井原西鶴の文芸について
2. 『好色一代男』巻八第三章「都のすがた人形」を読む
4. 『西鶴諸国ばなし』巻二第五章「夢路の風車」を読む
5. 『西鶴諸国ばなし』巻五第六章「身を捨てて油壺」を読む
6. 『好色五人女』巻四「恋草からげし八百屋物語」巻一・巻二を読む
7. 『好色五人女』巻四「恋草からげし八百屋物語」巻三・巻四・巻五を読む
8. 『本朝二十不孝』巻二第二章「旅行の暮の僧にて候」を読む
9. 『本朝二十不孝』巻四第二章「枕に残す筆の先」を読む
10. 『懐硯』巻一第二章「照を取る昼舟の中」を読む
11. 『懐硯』巻五第一章「面影の似せ男」を読む
12. 『本朝桜影比事』巻二第一章「十夜の半弓」を読む
13. 『男色大鑑』巻一第五章「墨絵につらき剣菱の紋」を読む
14. 『日本永代蔵』巻一第二章「浪風静かに神通丸」を読む
15. まとめ 西鶴の表現の仕掛け―挿絵から読み解く

8. 成績評価方法：

レポート 70% 受講態度 30%

9. 教科書および参考書：

毎回の講義資料を初回に配布する。参考書：『西鶴が語る江戸のミステリー 西鶴怪談奇談集』(2004年、ペリかん社)、『西鶴が語る江戸のラブストーリー 西鶴恋愛奇談集』(2006年、ペリかん社)、『西鶴が語る江戸のダークサイト 西鶴暗黒奇談集』(2011年、ペリかん社)

10. 授業時間外学習：

事前学習：各回で扱う作品を事前に読んでおく。

事後学習：各回で扱った作品を読み直す。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時. 前期 月曜日 5 講時

Semester: 5, 単位数: 2

担当教員：横溝 博 (教授)

講義コード：LB51401, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 国文学演習 】

1. 授業題目：

『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：

『源氏物語』「若菜上」～「柏木」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジюмеとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this class, you will read the volume captioned from 'Wakana Volume one' to 'Kashiwagi' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：

『源氏物語』「若菜上」から「柏木」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
2. 講義 (「若菜上」巻までの物語の流れ、第二部の構成、物語の人物について)
3. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「柏木」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「柏木」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「柏木」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「若菜上」～「柏木」巻の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「若菜上」～「柏木」巻の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [60%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】岩波文庫『源氏物語 (五) 梅枝～若菜下』(岩波書店、2019 年)、同『源氏物語 (六) 柏木～幻』(岩波書店、2019 年)を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。また、神田龍身『平安朝物語文学とは何か：『竹取』『源氏』『狭衣』とエクリチュール（MINERVA 歴史・文化ライブラリー 36）』（ミネルヴァ書房、2020年）。その他、参考文献は随時紹介する。

1 0. 授業時間外学習：

毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

1 2. その他：

- ・本演習は、第 6 セメスターを第 5 セメスターと合体して、前期開講の連続授業としている。そのため、2 時間とも履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：仁平 政人 (准教授)

講義コード：LB53202, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 国文学演習 】

1. 授業題目：

近現代文学における〈異界〉

2. Course Title (授業題目)：

Study on "Alien world" in Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：

本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈異界〉という概念を手がかりに、多様な社会的・文化的コンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this exercise is to analyze various novels written from the Meiji period to recent years, taking into account various social and cultural contexts, based on the concept of <alien world>.

Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.

5. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 戦後における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To learn how to analyze, present and present literary works.
- (2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of literature after the war.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ガイダンス 2
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

本演習は第 6 セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰 (教授)

講義コード：LB54202, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 国文学演習 】

1. 授業題目：

源義経をめぐる物語の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on Stories concerning Minamoto-no-Yoshitsune (源 義経)

3. 授業の目的と概要：

文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『義経記』等の、源義経をめぐる物語の考察の実践を通して理解して行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this seminar, you will understand what to learn and think about literature and culture through practice of study on stories concerning Minamoto-no-Yoshitsune (源 義経) .

5. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 源義経をめぐる物語についての解説
2. 源義経をめぐる物語についての解説
3. 源義経をめぐる物語についての解説
4. 源義経をめぐる物語についての解説
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. 考察発表とそれにもとづく意見交換

8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

本演習 (源義経をめぐる物語の研究) は、第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：仁平 政人 (准教授)

講義コード：LB63202, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 国文学演習 】

1. 授業題目：

近現代文学における〈異界〉

2. Course Title (授業題目)：

Study on "Alien world" in Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：

本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈異界〉という概念を手がかりに、多様な社会的・文化的コンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this exercise is to analyze various novels written from the Meiji period to recent years, taking into account various social and cultural contexts, based on the concept of <alien world>.

Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.

5. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 戦後における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To learn how to analyze, present and present literary works.
- (2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of literature after the war.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ガイダンス 2
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

本演習は第 5 セメスターから連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰 (教授)

講義コード：LB64202, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 国文学演習 】

1. 授業題目：

源義経をめぐる物語の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on Tales about Minamoto-no-Yoshitsune (源 義経)

3. 授業の目的と概要：

文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『義経記』等の、源義経をめぐる物語の考察の実践を通して理解して行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this seminar, you will understand what to learn and think about literature and culture through practice of study on stories concerning Minamoto-no-Yoshitsune (源 義経) .

5. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

本演習（源義経をめぐる物語の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。

